

T799 取扱説明書

T799-z-2507

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い下さいませようお願い申し上げます。
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度：平均月差±30秒以内(気温25℃で使用した場合)
(電波時計による時刻修正を行わない場合)
- 使用温度範囲：0～+40℃ ※結露なきこと
(外観/機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池：単4形アルカリ乾電池(LR03 1.5V) 2個
- 電池寿命：約12ヵ月(単4形アルカリ乾電池2個を使用し、1日にアラームを30秒、ライトを1回使用した場合)
- 電波受信：40kHz/60kHzのどちらか受信しやすい電波を受信し
現在時刻に合わせる
 - 自動受信(最多6回/1日)
 - 手動受信
- 時刻表示：12時間制表示、または24時間制表示
- カレンダー表示：2000年1月1日～2099年12月31日(フルオート)
- 温度計：表示範囲：-10.0～+50.0℃
※-10.0℃より低いとLL.L
+50.0℃より高いとHH.Hを表示
精度：±1℃
- 電波受信状況表示
- アラーム：電子音(2分間オートストップ)
- スヌーズ：スヌーズ間隔約5分(8回)
- ライト：残照機能(約8秒間)
- 電池交換お知らせ表示

※直射日光や強い光が長時間本体に当たると、部材の変形、変色、劣化の原因になります。

液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなる場合があります。
- 0～+40℃の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示は5年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

温度表示機能について

- 本製品は工業用(業務用)計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因になりますので、ご注意下さい。

電池の交換について

- 電池容量が不足してくると、液晶表示が薄くなる場合があります。
- 電池容量が少なくなると、電池交換お知らせマークが点灯します。このような場合は、速やかに同じ種類の新しい電池に2個同時に交換して下さい。
- ※買い置きした電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなる場合があります。

リセット操作について

電池フタを開けて単4形乾電池2個を電池ホルダから外して下さい。電池を電池ホルダから外した直後は、静電気や内部に残っている電流により誤動作(誤表示)する場合がありますため、液晶表示に何も表示されていないことを確認してから再度電池を入れて下さい。

電波時計について

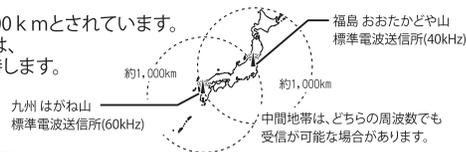
電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構(NICT)が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局:おたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局:はがね山標準電波送信所」の国内2か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について
標準電波は毎時15分と45分から各1分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波(送信停止)することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外での使用について
本製品は、日本の標準電波以外には受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承下さい。

電波の受信範囲について
送信所からおおむね半径1000kmとされています。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
- ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
- 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
- 自動車、電車、飛行機などの中
- 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
- スチール机などの金属製家具の上や近く
- 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作をして深夜の時間帯や使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jyy.nict.go.jp>

自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

受信の状態について

■電波受信モードに入った状態です。(電波を探している状態) 	■電波受信中です。
■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。 	■受信に失敗して終了しています。 ※次の受信開始(点滅)まで、表示されません。

手動受信について

電波受信が終了(受信マークが点灯、または消灯)しているときに戻るボタンを3秒以上押し、電波受信を開始します。
※電波受信中に戻るボタンを押すと受信マークが消灯し、電波受信を終了します。

12/24時間表示切替

通常時刻表示の時に設定ボタンを押すと、12/24時間表示を切り替えることができます。

ライト機能

SNOOZE/LIGHTボタンを押すと、ライトが約8秒間点灯します。

■AM/PMマーク: 12時間制表示のとき点灯します。
 ■電池交換お知らせマーク: 電池容量が少なくなったときに表示します。

電池の交換時期です

PM 12:38 25.0°C

6月10日火 25.0°C

液晶表示

■電波受信状況表示: 電波受信のとき設置場所の電波状況を表示します。
 ■電波周波数表示: 電波受信の時表示します。(40kHz, または60kHz)
 ■受信マーク: 電波受信の結果を表示します。
 ■アラームマーク: アラームがONのときに表示します。
 ■スヌーズマーク: スヌーズ機能の[入/切]状態を表示します。
 ■時刻表示: 時/分/秒を表示します。

■温度表示: 本体内蔵のセンサーにより温度を表示します。
 ■カレンダー表示: 月/日/曜日表示します。

■SNOOZE/LIGHTボタン: スヌーズ機能に使用します。1回押すと、ライトが約8秒間点灯します。

本体裏面

① 設定 (12/24) ② 進む (ON/OFF) ③ 戻る (受信) ④ アラーム

■電池ホルダ
 ※電池を入れるときは○側から入れて下さい。
 ※電池を外すときは○側から外して下さい。

■電池フタ

■ツメ部分

▲注意
 種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。電池の破裂や時計の故障の原因になります。

■電池フタツメ受け穴

ご使用方法

- 表示ラベルを剥がして下さい。
 ※ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。
- 電池フタを開けて単4形乾電池2個を⊕の表示に合わせて入れ、ツメ部分を電池フタツメ受け穴に差し込み電池フタを閉じます。
 →ライトが点灯し、「ピッ」と音がした後、液晶面が表示され、電波の受信を開始します。
 ※受信中は受信マークが点滅します。
 ※受信には最長20分かかります。
- 受信の結果を確認する。(本書「受信の状態について」を参照。)
 ●受信成功→受信マークが点灯し自動的に時刻・日付を修正して表示します。
 ●受信失敗→受信マークは消灯します。時刻・日付は修正されません。

電波受信ができなかった場合は…

- 手で時刻を設定し、朝までそのままにしておく
 本書「手で時刻を設定する」を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにして下さい。一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておく、受信できる可能性が高くなります。
- 設置場所を変える／受信をやり直す
 本書「電波時計について」の「電波を受信しにくい環境」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせて下さい。
 ※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

手で時刻を設定する

注意 ※電波受信中(受信マークの点滅中)は手動による時刻設定はできません。
 ※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

[年(西暦)]2025年 [例] 2025年6月10日 午後12時38分を設定する場合

- 設定モードに入る
通常時刻表示のときに設定ボタンを3秒以上押すと[年]が点滅し、日付/時刻の設定モードに入ります。
- [年] (西暦)を設定する
[年]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[年]を合わせ、設定ボタンを押します。
- [月]を設定する
[月]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[月]を合わせ、設定ボタンを押します。
- [日]を設定する
[日]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[日]を合わせ、設定ボタンを押します。
- [時]を設定する
[時]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[時]を合わせ、設定ボタンを押します。
※[午前 (AM)]と[午後 (PM)]を間違えないように注意して下さい。
- [分]を設定する
[分]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[分]を合わせ、設定ボタンを押します。
※[秒]は進むボタン/戻るボタンを押すごとに00秒に設定されます。

完了

以上で設定が完了します。

- 設定ボタン: 手動時刻設定に使用します。通常時刻表示のときに押すと、12/24時間表示を切替えます。
- 進むボタン: 設定操作中に1回押すごとに項目を加算します。長押しで早く進める事ができます。アラーム時刻表示中に押すとアラームのON/OFFを切替えることができます。
- 戻るボタン: 設定操作中に1回押すごとに項目を減算します。長押しで早く戻る事ができます。通常時刻表示の時に長押しすると、電波受信を開始します。
- アラームボタン: アラーム時刻設定に使用します。

アラーム時刻の設定

注意 ※電波受信中(受信マークの点滅中)はアラーム時刻の設定はできません。
 ※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

[例] 午前7時10分にアラームを設定する場合

- アラーム時刻を表示する
通常時刻表示のときにアラームボタンを1回押すとアラーム時刻を表示します。
- 設定モードに入る
アラームボタンを3秒以上押すと[時]が点滅し、アラーム設定モードに入ります。
- [時]を設定する
[時]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[時]を合わせ、アラームボタンを一度押します。
※[AM (午前)]と[PM (午後)]を間違えないように注意して下さい。
- [分]を設定する
[分]が点滅している間に進むボタン/戻るボタンで[分]を合わせ、アラームボタンを一度押します。
→通常時刻表示に戻り、設定が完了します。

※アラーム時刻は[秒単位]の設定はできません。
 ※アラームの12/24表示は時刻表示と連動しています。12時間制表示のとき、[AM (午前)]と[PM (午後)]を間違えないように注意して下さい。

アラームの鳴らし方

- 通常時刻表示の時に、アラームボタンを押してアラーム時刻を表示させます。
- アラーム時刻表示中に進むボタンを押して、アラームマークを点灯させます。
 →アラーム時刻になるとアラームが鳴ります。

アラームの止め方 / スヌーズ機能

- アラームを止めるには3通りの方法があります。
- アラームを完全に止める
 SNOOZE/LIGHTボタン以外のボタンを押します。
 →アラームが鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
 アラームマークは点灯したままです。
 ※アラームが鳴っている間はアラームマークが点滅します。
 ※アラームマークを消灯するには、アラームボタンを押しアラーム時刻の表示中に進むボタンを押して下さい。アラーム機能が解除されます。
 - アラームを一旦止め、約5分後に、再度アラームを鳴らす(スヌーズ機能)
 アラームが鳴っている間にSNOOZE/LIGHTボタンを押すと、アラームが一旦鳴り止まり、再び鳴り出します。
 ※スヌーズ機能中はスヌーズマークZzが点滅します。
 ※スヌーズ機能は8回まで繰り返すことができます。
 ※スヌーズ機能中にSNOOZE/LIGHTボタン以外のボタンを押すと、スヌーズ機能は解除されスヌーズマークZzが消灯します。
 - アラームを自動的に止める(オートストップ機能)
 アラームは鳴り出してから2分で自動的に止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
 ※アラームマークは点灯したままです。